

# 加賀友禅ニュースター

*Kaga-Yuzen Newsletter Vol.2*



## 加賀友禅の技術を未来に活かす

加賀友禅技術振興研究所  
所長 藤村 盛造

加賀友禅技術振興研究所がスタートして早1年を迎えようとしています。

ライフスタイルが大きく変わってきた今日、若者のブランド志向もそれ程ではなく、購買動機も過去のデータでは役に立たなくなってきました。そのような社会情勢の中、私たちは原点に立ち返って、皆で改めて勉強を重ねることになりセミナーを開催してきました。

休日にも関わらず、多くの方々の参加があり、皆さまの熱心な姿が現実の厳しさと重なって、一刻も早い打開策として、研究促進活動の必要性を感じました。セミナーでは其々専門分野の第一線で活躍しておられる講師を迎え、勉強会を重ねていますが、私も染色団地で皆さまと一緒に染色技法を体験させていただきました。

一方、運営委員会で取り上げたテーマを4部門に分けて、ワーキンググループが参加希望者により構成され、駆け足で進めているのが新製品開発研究です。

ワーキンググループは、テーマ遂行の目標を持ちながら加賀友禅の技術を活かした「ものづくり」の対象品選びをはじめ、其々の専門分野が集まって、自らの技術が何に活かせるかを知り、また刺激を受けて、知識と経験をもとに意見を出しあい交流を深めながら新しい発見の場を相互で見つけることが狙いです。

創造的な民間オフィスではクリエイティブオフィスとして、暗黙の頭の中にある個人の経験知を相互に出し合い、企業資産となるように形にする動きが盛んです。

即ち暗黙知から形式知にすることによって、皆が共有できる企業資産として発展させ加工し、結果的に企業が利益を上げ、皆に戻ってくるからです。

加賀友禅は分業がなされていたため、それぞれの分野で専門家が発生し、それを生業として、手仕事の一つのことを積み重ねることで、他のものにはまね出来ない自負をもって今日まで来られたと思います。問屋の悉皆制度が崩れてしまった現在では、どうでしょう、仕事量が減ってきた今日では自らの道を広げるか、誰かが面倒を見てくれないと自らの手仕事が消えつつあり、このままでは宝の持ち腐れになってしまうことは必定です。

誰かが面倒を見てくれるという、消極的な受身の姿勢から自ら積極的に交流を深め、加賀友禅の技術が未来へ活かせる道を議論し、相互に補完しあう姿勢が大切ではないかと考えるからです。異業種、異分野、異文化の交流から自立心溢れる自らお持ちの技術が活かせる「場」を見つけ出していきたいと願っています。

感性豊かな加賀友禅技法、知らない人へ知っていただく努力も政策もこれから必要です。

加賀友禅技術振興研究所は皆さまの経験知を形式知にして、それを加工し発展させる基礎作りをいま始めたばかりですが、金沢で培われ、伝承されてきた技術、知恵はみな「人」がもっています。皆さまの自立心こそ、次なる「人」が学ぶ良き教材ではないかと思えます。皆様との「協働」を研究所は重ねていきたいと考えています。

加賀友禅ニュースター Vol.2

2010.7.1

発行：加賀友禅技術振興研究所

〒920-0932 金沢市小將町8番8号

加賀友禅伝統産業会館2階

Tel.076-265-1040

Fax.076-265-1041

E-mail:yuzen@salsa.ocn.ne.jp

開所時間／9:00～17:00

休業日

毎週水・日曜日・祝日および年末年始



実技講習会



染料講習会



## 幅広い視点から人材育成への取り組み

加賀友禅技術振興研究所では、若手職人・作家などを対象にした「人材育成講習会」を下記のように開催しました。加賀友禅業界の現状打開と活性化をはかるために、技術と販売の両視点で、関連企業等から講師が招かれ、各講習会での熱心な取り組みに期待が寄せられています。

### 【技術講習】

#### 1. 実技講習会

日時／平成21年12月19日(土)

講師／坂井 博、奥田 勝将、坂口 幸市、笠瀬 文雄

テーマ／「友禅流し」「糊置」「型染」「引染」工程の基礎的な実習

内容／加賀友禅は、作業工程の分業化で、最終製品として消費者が着用した姿をイメージしたものづくりに取り組めていない問題点が指摘されました。講習会では、若手作家、職人が主な制作工程を通して、基礎的な実技の実習などを行いました。

#### 2. 「染料(道具含)」講習

日時／平成21年12月20日(日)

講師／高橋 誠一郎(株)田中直染料店

テーマ／「染色(染料・道具等)の現状と課題、新しい技法について」

内容／京都から染料メーカーの技術者を招き、「染色の新しい技法等」について実演・実習を行い、染料と染色の際に用いる道具類、染色技術の問題点、最先端の染色技法等を学びました。

#### 3. 「色彩論」講習

日時／平成22年1月16日(土)

講師／南雲 治嘉(株)ハルメージ 代表

テーマ／「進化する配色技法」

内容／先端的な色彩学について、和風配色を例に脳科学からの色彩システムを学んだほか、講師が日本経済新聞社と共同調査した最新の色彩動向を含めた、これまでにない色彩論が展開されました。

#### 4. 「色彩・デザイン」講習(全3回)

日時／平成22年1月25日(月)～2月6日(土)

講師／寺井 剛敏(金沢美術工芸大学 教授)

テーマ／「色からアイデアまで」

内容／実践的な講習を3回連続で行い、仕事柄、日頃見慣れている色について、具体的な事例を参考に、色が選択されるまでの考え方を学んだほか、アイデアをデザイン化するためのトレーニングや自分自身の中にある色を制作することで、デザイン化や色彩選択の手法等を体系的に学びました。

### 【販売講習】

#### 1. 「販路開拓」講習

日時／平成22年1月13日(水)

講師／矢嶋 孝敏(株)やまと 代表取締役社長

テーマ／「新しい加賀友禅の未来」

内容／きものナショナルチェーン社長を講師に迎え、講演会を開催。消費者に求められるオリジナル商品の開発や、新しいきものファンをつくるための革新的な取り組み等が紹介されたほか、伝統的な加賀友禅のきものに新しい価値を創造し、将来に向けて飛躍させるための手法等を学びました。

#### 2. 「知的財産権」講習

日時／平成22年2月5日(金)

講師／日高 一樹(日高国際特許事務所 所長)

テーマ／「商品開発と知的財産権(基礎)」

内容／模倣品や類似品の出現から自身の商品を守り、知的財産権を活かした攻めのビジネスモデルを構築するための戦略的な手法について、最新の事例を交えながら基礎的な知識を学びました。

#### 3. 「人材開発」講習

日時／平成22年2月15日(月)

講師／藤永 幸一((有)レックス 代表取締役社長)

テーマ／「買ってもらう仕掛け」を産地として考える

内容／消費者に商品を買ってもらうための仕掛けづくりを産地全体で考えるための「人材開発セミナー」を開催しました。多方面に、より積極的な関わりをもつことの必要性を確認しました。

## 新分野開拓と産地支援への取り組み

平成21年10月に産業活性化委員会が結成され、加賀友禅に関わる作家、職人、問屋担当者が4つの部会に分かれて「新分野開拓」「産地支援」のための基本的な戦略等について検討。加賀友禅を活性化させる具体的な事業を実行しています。

新分野開拓では、「洋装分野の用途開発部会」が、加賀友禅柄を活かしたスーツなどを地元アパレルメーカーと共同で開発に取り組んでいるほか、「室内インテリア分野の用途開発部会」がのれんやパネルなどで新しい商品展開の可能性を探っています。

いずれも販路を見据えた上で、消費者のニーズをとりいれながら、従来になかった分野で商品用途の多様化をはかり、購買層の裾野拡大を目指しています。また産地支援では、「新規きもの需要の底辺拡大部会」がきもの着体験会をはじめとする新しいアプローチを検討しているほか、「加賀友禅ファンの育成部会」では、幅広く加賀友禅ファンを募り、将来的な顧客の獲得を図るためのファンクラブ結成に向けて会員の募集方法や加入特典等の調整を行っています。

## アトリエ探訪 美の交差点

### 加賀友禅の視点で、 着物を超えた 空間美の創出にも 挑戦してみたい。

大切にしてきた言葉が二つ。一つは「千紫萬紅」で、色とりどりの花が咲き乱れている様をいい「その中からどの色を取り出すか…」、清水公照師の墨蹟。もう一つは「楽友禅」で、普段の生活から加賀友禅を楽しむ心を詠い、鷺見透玄師の筆になる。毎田仁郎、健治、仁嗣の三代を重ねる、いわば毎田染画工芸の工房訓ともいえ、本物の持続がそれを生む。

毎田健治さんは昔日を振り返りつつ話す。大学を卒業し、父仁郎さんに師事した昭和40年前後の加賀友禅業界は、わずか数十人ほどで支える小さな規模だったという。青花会という若手作家グループをつくった毎田さんたちは、加賀友禅の人間国宝木村雨山さんを招き、さまざまな図案や技法を学ぶとともに新しい表現を日々模索した。

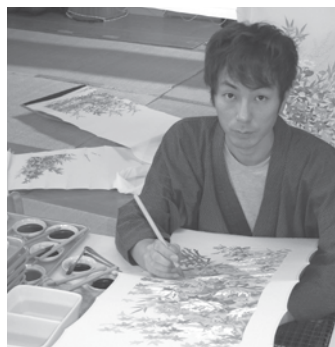
こうした活動の中で、やがて経済成長期を迎え、マーケットの拡大による友禅作家の急増や商業優先の効率化が叫ばれる。しかし、健治さんは視点を変えた。

「作家は自分を活かす道として加賀友禅を選んだわけで、ある意味ではハングリーになってこそその技量ですね。確実に質のよい着物を生み出すためには、作業や技術の効率化ではなく、厳しい自己チェックの上の自由な創造が最も楽しいのでは」

加賀友禅の着物の良さを次代につなげる役割は、三代目の仁嗣さん。「父の背中から学んだことを自分なりに工夫して、いろんな挑戦はやれそうです」と笑う。



「装遥」 毎田健治作



奏(かなで) 毎田仁嗣作



加賀友禅作家

**毎田健治**

(まいだ けんじ)

**毎田仁嗣**

(まいだ ひとし)

毎田染画工芸

金沢市本多町3-9-19

TEL.076-221-3365

FAX.076-224-5880

父子相伝

#### 【プロフィール】

##### ●毎田健治

1940年 金沢市生まれ。  
1964年 金沢美術工芸大学日本画科卒業。父毎田仁郎に師事。  
1978年 日本伝統工芸染織展にて文化庁長官賞受賞。昭和五十九年金沢美術工芸大学助教授(平成六年退官)  
1986年 日本伝統工芸染織展審査員。日本橋三越にて個展以降平成七年まで毎年開催。  
1988年 シンガポールにて開催された日本工芸展に出展。  
1989年 現代美術展審査員(以降五回)  
1990年 日本伝統工芸染織展審査員。  
1991年 天皇・皇后両陛下石川国体行幸に際し、衝立、卓布等謹作。ベルリンの日独文化センターにて個展開催。  
1998年「フランスにおける日本年1998年」パリ日本文化会館にて作品展示。  
2001年 石川県立音楽堂邦楽ホール 友禅緞帳「瑞松彩花」制作。秋篠宮文仁・紀子両殿下加賀友禅産業会館御台臨に際し御手造の栄誉を賜る。石川県文化功労賞受賞  
2003年 金沢全日空ホテルにて個展開催。  
2005年 日本伝統工芸展にて優秀賞受賞。  
2008年 石川テレビ賞受賞

日本工芸会正会員  
(財)石川県美術文化協会常任評議員  
(協)加賀染振興協会副理事長  
石川県伝統工芸士会会長  
石川県和装文化協会理事長

##### ●毎田仁嗣

1998年 芝浦工業大学工学部建築学科卒業。父毎田健治に師事。  
2007年 金沢市工芸展 世界工芸都市宣言記念賞受賞。  
2009年 金沢市工芸展 石川県知事賞受賞

## 「第7回ミス加賀友禪コンテスト」出場者募集

「ミス加賀友禪コンテスト」は、石川県在住または通勤・通学の方で、18歳以上30歳未満の未婚女性を対象に行われており、今回で7回目となります。ミスに選ばれた方には、加賀友禪の親善大使として各催事にきもの着用で参加し、加賀友禪の素晴らしさをアピールしていただきます。また、新作の加賀友禪の訪問着が賞品として贈られます。

### ●募集要項

選定人数 2名

応募資格 18歳以上(高校生は不可)30歳未満の未婚女性。“きもの姿”がよく似合う女性。石川県在住または通勤・通学の方。特定の団体・会社と専属契約のない方、現在、他のミスコンに応募していない方に限ります。  
選ばれた2名の方は加賀友禪の親善大使として催事などで、きもの着用での協力をお願いします。

提出書類 所定の中込書一通(身長・体重・B・W・Hを記入のこと)  
※提出書類は返却いたしませんのでご了承ください。  
写真(最近1年以内撮影した顔写真及び“きもの又はゆかた姿”の全身写真各1枚)

※洋服でも可。写真の裏面に氏名を記入のこと。  
応募先 〒920-0932 金沢市小將町8番8号 (協)加賀染振興協会“ミス加賀友禪コンテスト”係または、最寄の呉服店へ直接お持ちください。

締切日 平成22年9月14日(火)必着(自薦・他薦を問いません)

審査 第1次審査(書類選考)通過者に文書にて通達。第2次審査は下記の要領でコンテストにて決定いたします。

コンテスト 平成22年10月17日(日)、しいのき迎賓館(おしやれメッセージ2010)できもの着用にて審査を行います。

お問い合わせ：(協)加賀染振興協会 電話 076-224-5511

## 加賀友禪技術振興研究所のキャッチフレーズやシンボル・ロゴが決定しました。

石川県の指定無形文化財に指定されている加賀友禪が、その創意あふれる技術性ときもの文化発信力を今後ますます高めつつ、あらゆる当事者が一丸となって大きく未来を切り開いて行くことへの決意を新たに、このほど加賀友禪技術振興研究所のシンボルマーク・デザインが決定されました。



伝え、活かし、挑む

## 加賀友禪技術振興研究所

Institute for the Promotion of Kaga Yuzen Technique

### ●シンボルマークのデザインコンセプト(概念)

未来に向かって「伝え・活かし・挑む」加賀友禪を、新しい風にたなびき上昇するカラフルな色彩の帯の重ねで表現しました。金沢の梅鉢紋をイメージする中心の丸は、「加賀友禪技術振興研究所」を表します。

その研究所を中心に「行政、友禪業界、研究者、流通者、消費者」を表す5つの丸が連携して加賀友禪を振興していきます。

## ちよと加賀屋流



### 城下町の季節感

ことわざに「あつものに懲りてなますをふく」というのがある。熱々の吸い物料理を勢い込んで口にし、そのアチー思いの失敗に懲りて、酔の物など冷えた料理までフーフーと吹いてしまうことを言う。日常の中にも予測を超えた出来事が多々あるわけで、用心のしすぎは実に間抜けな姿ともなるが、とっさの対応力を自在に引き出せる能力を備えることも昔の人は日頃の鍛錬と心得ていたようである。

とりわけ季節に敏感なことなども美德のうちで、風をよみ逸りをよみつつ、さり気なく夏は夏の在りようを身に取り込む。律儀な武士や町人が大勢いた城下町金沢ともなれば、この微妙な交差が、まちの潤いや色香でもあった筈。

家並の向うの空に曆を感じながら歩くことや、川音に耳を澄まして立ち止まるほんの一瞬からも、何やら胸ときめく記憶をともなって季節がやってくるのは今も昔も変わらない筈なのだが・・・そう、機敏にまちを歩こう。

(坂本善昭)

### 催事スケジュール

#### 第36回加賀友禪新作競技会

内容 加賀友禪に携わる者の技術の向上をめざし毎年行われているこの競技会も本年度で第36回となり、(協)加賀染振興協会加盟作家の最新作が出品されます。

会期 平成22年11月5日(金)～7日(日)

9:00～17:00 (5日は13:00より一般公開)

会場 加賀友禪伝統産業会館(金沢市小將町8番8号)

入場料 無料

お問い合わせ：(協)加賀染振興協会 電話076-224-5511

第36回加賀友禪新作競技会は、平成22年11月12日(金)～22日(月)、全国伝統的工芸品センター(東京都豊島区池袋)でも開催されます。